



いすみ市地域おこし協力隊活動状況



地域おこし協力隊関係事業1(フィルムコミッション事業)



過去にテレビ関係等のプロデューサーであった経験を活かし、市役所の職員と一緒に『いすみ外房フィルムコミッション(iSFC)』を立ち上げ、映画やドラマを誘致し、いすみ市のシティーセールス・情報発信を積極的に行っています。

※いすみ外房フィルムコミッション(iSFC)とは

いすみ鉄道への出資自治体である大多喜町・御宿町・勝浦市・いすみ市の4自治体における映画、TVドラマ等のロケーション撮影に伴い、支援並びに誘致する連携機関として、いすみ市企画政策課内に事務局を設置し、総合窓口を設けて、周知並びに機能の充実をはかり4自治体の地域経済の活性化、地域の振興並びに観光振興、移住促進等に寄与することを目的に組織された団体です。

・主な撮影・放送実績

バラエティ:TBS「恋んトス」

C M :ダイハツ「ウェイク」・日清「チキンラーメン サンドアート篇」
龍角散「らくらく服薬ゼリー」親子篇

ドラマ :テレビ東京「孤独のグルメSeason5」・TBS「神の舌を持つ男」・スカパー「弱虫ペダル」
テレビ朝日「相棒」・TBS「はぐれ署長の殺人急行 九十九里浜迷宮ダイヤ」

地域おこし協力隊関係事業2(大原漁港【港の朝市】運営支援事業)



「大原漁港 港の朝市」運営委員会役員と面識を持った中、港の朝市の支援等を依頼され、平成28年度からの毎週開催に伴い、「港の朝市運営委員」として参加しています。主な支援内容は、出展者の配置・物品等の管理・会場設営などです。また、朝市の出店者と「朝市バンド」を結成し、ライブ演奏【右の写真】などを行っています。

※「大原漁港 港の朝市」とは

地域活性化を目的に港の朝市運営委員会(いすみ市商工会)が主催となり、平成25年5月から開催されており、会場では多くの水産物、野菜類などの地元特産物や農水産商工産品を販売しています。

また、そこには無料で使用できるバーベキュー台が設置してあり、市場で買った魚介類などをその場で焼いて食べることができます。



地域おこし協力隊発案事業3(有名写真家とコラボしての撮影会)

星の写真を撮ることが好きで、綺麗な星空を求めて北海道から沖縄の離島まで日本中を回っているうちにいすみ市が、星の綺麗な事を知って、ほぼ毎週通うようになりました。

地域おこし協力隊の活動としては平成28年3月に有名写真家中井精也先生を講師にお招きし「いすみ市の魅力を体感する撮影会」を開催しました。

今後も写真を活用した“地域おこし”に挑戦します。

※隊員が市内で撮影した写真データです。



地域おこし協力隊関係事業4(シェアオフィス事業)



<事業の内容>

仕事を持ちたい若者だけではなく、元から仕事を持っている若者も誘致し、経済・産業の活性化をもたらすことを目的に、特に豊かな自然に囲まれた環境の下で仕事や起業がしたいという人を誘致し、民間及び行政の遊休施設等の有効活用に繋げ、それらを起点として雇用の増加を促します。

前例として成功している徳島県神山町におけるIT事業者誘致事業をモデルとして目標にしています。



<6月から開設～現状の利用状況～>

- 開設してから2か月間の利用者は1日に平均1.5人程度でありましたが、6か月目を迎え平均4～5人に徐々に増え始めています。
- 近隣施設等へのチラシ配りに加え、認知度を高めるため、PCソフト等のスキルレクチャー会などのイベントを行い、盛況となりました。
- リピーターとなっている利用者からこのような場の必要性和継続を強く訴える声を聞いています。

有害鳥獣の駆除及びその活用



キョン



原皮



いすみ市産キョン革で作った
純国産ベビーシューズ

畑を荒らす有害鳥獣のキョンは、現在いすみ市に14,000頭以上生息しており、今後、生息地は県外の茨城・栃木・埼玉県にまで拡大し、その頭数は現在の約4万頭から10年後には100万頭にまで増加するとも言われています。

そこで県内狩猟者全体のキョン捕獲意欲を高めるため、キョンの皮や肉、角・骨などの利活用法を調査・実証し、6次化や新たな地域産品の創出までを視野に入れた様々な商品開発を検討・進めています。なお、写真の靴は体験型観光の新たな目玉としていすみ市産のキョンを捕獲し、皮を剥ぐところから試作したクラフト講座向けのベビーシューズです。



クラフト講座の様子

地域おこし協力隊関係事業6（チーズおこし協力隊活動事業）

いすみ市は酪農がさかんな土地で、チーズづくりを始める人が増えています。同一市区町村あたりのチーズ工房数は全国で最も多く、現在は5軒の工房がチーズを製造しています。

将来的に、いすみ市が“チーズのまち”として認知されるために必要なことは、①各工房がチーズ製造技術をより一層高めていくこと。②各工房の販売力の強化。③市民が日常的にチーズを消費できる体制づくりを図りチーズ文化を興隆させることです。

今後もチーズ製造技術の勉強を続ける傍ら、地域おこし協力隊の活動としてその支援をしていきます。

